令和５年度　中央区立京橋朝海幼稚園　外部評価報告書

外部評価委員：松岡　誠一郎　徳堂　康彦　森田　俊秀　鈴木　康介　田中　悟志　金子　純平
野口　敏朗　石井　卓之
報告書作成者：野口　敏朗

評価時期　　令和　６年　３月

１　重点目標の評価

重点目標１「自然環境の中で知的好奇心を育む」について

評価項目である「幼児が主体的に関わり、遊びや生活を豊かにする自然環境を充実させる」について、園では「都会の中でも、自然と触れ合う経験を大切にできるよう、環境を整えている。今年度は、収穫した野菜を調理して会食することもで、苦手な野菜を食べてみる意欲につながった」と自己評価している。それを受けて「自然物や飼育栽培物等、命ある対象との関わりを楽しみ、大切にしようとしているか」という評価指標に対して、保護者の 71.4%は「十分達成している」、28.8%は「達成している」と回答していることから、園の取組は良好と判断できる。加えて、保護者は、「直接体験を通し、多様な気付きや意欲を得ることができている」ことも認めている。一方、「都会の中での自然環境」で「本物」を求めることには限界があり、その整備には、幼児の興味・関心を高める工夫が不可欠であることも十分留意されたい。

重点目標２「人と関わる力を育む」について

評価項目である「『きょうだい感覚』のある日常的な異年齢交流と、外部との各種交流を充実させる」については、園では、「コロナの緩和により、園内外の人との交流が複数実施できた。また、その様子を保護者にも伝えていくことを重視した。また、日頃遊びの中で異年齢交流ができるように計画をたてた」とした。その結果、「園内の異年齢交流、異校種交流の経験をきっかけにして、人との関わりを広げているか」という評価指標において、保護者の 62.9%が「十分達成している」、37.1%が「達成している」と回答し、全家庭からの支持を得ている。このことから、園の「人と関わる力を育む」という取組に対しては、その様子を保護者に伝えていくことを重視したことが功を奏した模様である。一方、「人と関わる力」は抽象的な表現であり、「どのような力なのか」を保護者と具体的に共有されたい。

重点目標３「健康でたくましい体をつくる」について

評価項目である「多様な経験ができる運動遊びの場や機会を充実させる」について、本園では、「握力の数値が下がってきている」と具体的な項目を挙げ、評価指標を「各種（運動遊び、トライデー、ボルダリング、ロープ等）の取組を通し、自分の力を伸 ばすことの充実感や達成感を感じているか」とし、その具現化のために、幼児が園内の遊具との関わる機会を意図的・計画的に設けている。また、運動遊びの取組の様子を保護者と共有し、成長を共に喜べるようにもしている。一方、幼児の握力測定などに関しては、その精度については曖昧さも伺われる。加えて、その伸び率は、一朝一夕に高められないことから、多様（複合的）な経験ができる運動遊びの場や機会を設定している本園の姿勢は高く評価したい。

２　今後の改善に向けた意見

一般的に幼稚園では、その教員数や保護者数が少ないため、パーセンテージで示すことの限界があることも考慮しなければならないが、教員の自己評価や保護者へのアンケート調査は、適切に実施されていて、その集計や分析も良好であり、来年度への大きな指針となっている。そもそも、すべての教育活動は「園の教育目標」に迫るものである。したがって、各重点目標も「園の教育目標」を強く意識して設定されたい。そうした点に着目すると、「知的好奇心を育む」ことで「考える子ども」を、「人とかかわる力を育む」ことで「やさしい子ども」を、「健康でたくましい体をつくる」ことで「元気な子ども」を育てるという重点目標は的を射ているものである。今後も、「教育目標」を強く意識した保育（教育活動）を推進されたい。

３　その他の意見

遊びを通して幼児の成長を促す幼稚園では、幼児が展開している「今の遊び」の意味や価値を示すことが大切である。そうした点を、本園は教員と保護者が共有する努力がなされていると感じている。